

アンケート結果、お客さまの声

2017年6月に発行した「2017九州電力環境アクションレポート」の読者アンケートを通じて、九電グループの環境活動のあり方などについて、424名の皆さまから貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2017年度は「レポートのわかりやすさ」、「環境への取組みの評価」が、ともに2016年度より高い結果となりました。2018年度については、再生可能エネルギーの開発と受入れについて詳しく紹介するとともに、事業活動における重要な環境課題の特定プロセスの説明(P9参照)など、読者の皆さまにより親しみやすくご理解いただけるよう、内容・構成を見直しました。

■ 九州電力の取組みについて、ご関心を持たれた項目と、その理由やご意見

(回答者数=424)

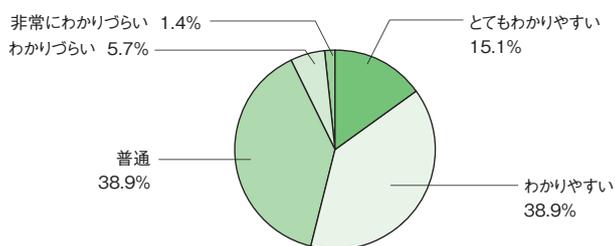
順位	項目(上位5項目)	選択数			主な理由・ご意見
		最も関心あり	関心あり	合計	
1	安全の確保を大前提とした原子力発電の活用	60	39	99	<ul style="list-style-type: none"> 毎日使っている電気だからこそ、安定供給には今のところは原子力発電が必要。ただし、何かあってからでは遅いので、使用している一消費者として知っておく必要がある 原子力の安全確保が、九電の最大で最重要な仕事
2	特集1 CO ₂ 排出抑制に向けた需給両面での取組み／ 原子力発電の活用によるCO ₂ 排出量削減／ 家庭から出るCO ₂ 排出量削減の必要性	51	39	90	<ul style="list-style-type: none"> 家電製品の買い替えなど電気の更なる節約で、国を挙げて省エネルギー化に努める必要があると感じた 原子力発電のCO₂排出量は確かに低いが、事故が起きなかった場合であり、安易に比較できない
3	特集2 将来を担う次世代の環境を大切に 心を育んでいます／森を楽しみながら学ぶイベント 「Play Forest」を九州各地で開催／ くじゅう九電の森での環境教育活動	48	48	96	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みの中で、次世代を担う子供たちを対象とする活動に取り組む姿勢を評価した。願わくば、より多くの街(特に発電所立地自治体)で開催して欲しい 九州各地で開催されている事を知らない人が多いと思う。もう少しCM等を通して教えてほしい
4	再生可能エネルギーの積極的な開発と 最大限の受入れ	33	56	89	<ul style="list-style-type: none"> 再エネの積極的な開発のため、九州の豊富な地熱資源を活用し地域との共生を図りながら導入を進めてほしい 再エネを積極的に利用していかなければ、エネルギー問題は解決できないと感じる
4	お客さまとともに進める省エネ活動	33	49	82	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効活用について、一人一人が考えていべき時がきている 省エネに関しては特に主婦層の関心が高いと思うので、特集化しても良いと思う

(注)「最も関心あり」の選択数で順位付け。最も関心ありは1つ、関心ありは4つまで選択可能

■ 2017九州電力環境アクションレポート アンケート結果

レポートのわかりやすさ

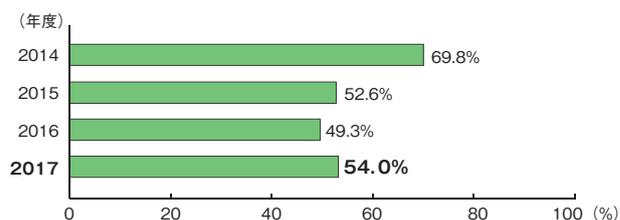
(2017年度 回答者数=424)



■ ご意見の経年変化

レポートのわかりやすさ

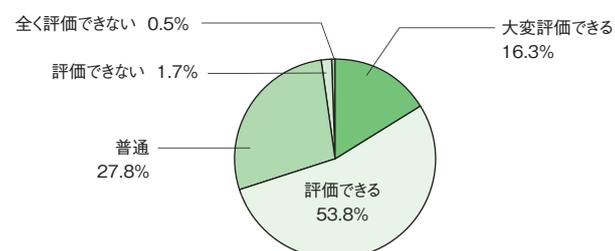
(2017年度 回答者数=424)



(注)「とてもわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合

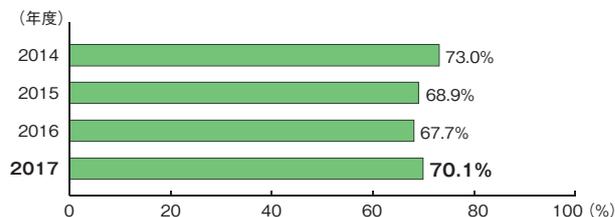
■ 当社の環境への取組みに対する評価

(2017年度 回答者数=424)



■ 当社の環境への取組みに対する評価

(2017年度 回答者数=424)



(注)「大変評価できる」、「評価できる」の回答割合

エコ・マザー活動におけるアンケート

保護者の方々と保育園等の先生を対象に、エコ・マザー活動(P52)に関するアンケートを実施しています。

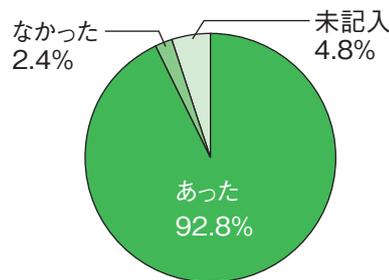
アンケートでいただいた貴重なご意見については、今後のエコ・マザー活動に活かしていきます。

<アンケート回答数>

保護者:2,880 保育園等の先生:167

■ エコ・マザー活動へ参加後の変化(保育園の先生)

Q:エコ・マザー活動後に、お子さまに変化がありましたか



■ 家庭での環境への取組み(保護者) (複数回答可)

Q:ご家庭で取り組む環境に配慮した行動について、エコ・マザーから子どもたちに伝えてほしいことは何ですか

○ 照明はこまめに消すこと	74.6%
○ 歯を磨く時に水を止めること	69.1%
○ テレビを見る時間や使い方の工夫	55.7%
○ シャワーをこまめに止めること	49.6%
○ 冷暖房の設定温度への配慮	42.8%
○ ゴミを極力出さないようにする工夫	34.8%
○ エコバッグの利用	34.3%
○ 使用しない時の家電製品のプラグ抜き	33.0%
○ その他	2.7%

■ 読み聞かせ後の子どもたちの変化(保護者 保育園の先生)

○ 節水するようになった	51.5%
○ 節電するようになった	25.1%
○ 節水・節電の声かけをしていた	14.4%
○ 「もったいない」と言うようになった	13.2%
○ 環境紙芝居に登場する合言葉を言うようになった	7.8%
○ 「CO ₂ が出る」と言うようになった	7.2%
○ 給食を残さないと言うようになった	3.6%
○ ゴミを分別したり減らすようになった	3.0%

環境に関するお問い合わせ等への対応

■ 環境に関する主なお問い合わせ内容と対応(2017年度)

項目	件数	主な内容	対応概要
ご提案	1	CSR報告書に、2015年に施行された「フロン排出抑制法」に基づく、対象フロンの排出量を記載して欲しいとご提案。	「フロン排出抑制法」に基づく、対象フロンの排出量については、2017九州電力環境アクションレポートP14「環境負荷量」、P18「ハイドロフルオロカーボン(HFC)」の項に記載している旨をご説明。
ご質問	1	2017年度の電力のCO ₂ の排出係数を用いてCO ₂ 排出量を調べたいが、九州電力のホームページでは2016年度の実績が最新となっている。 2017年度のCO ₂ 排出量を計算する上では、2016年度の排出係数0.483kg-CO ₂ /kWhを用いてよいのか。	「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」では、国に温室効果ガスの排出量を報告する際は、電気の購入先である電気事業者の当該年度の「前年」のCO ₂ 排出係数を用いて算定することとされている。 このため、お客さまが2017年度のCO ₂ 排出量を算定される場合は、当社の2016年度のCO ₂ 排出係数をご使用いただくようご説明。